

この魅力的なエリアは、日本の農村の郊外に見られるような、軽く人の手が加わった森林、草原、水辺の動植物生息地を再現すべく設計されたものです。持続的に管理されてきたこのような田舎の環境は、現在では里山として知られています。2007年にリニューアルオープンしたこのエリアは、生物多様性を保全するためのビオトープとしての役割、および子どもたちが自然を学べる野外教室としての役割を果たせるように設計されています。430mの遊歩道では、水辺や草原、さまざまなテーマを持つ森林が楽しめます。母と子の森は子どもとの散策に最適な場所です。木や野の花だけでなく、トンボやコバ尔特ブルーの体が美しいカワセミなど、幅広い種類の虫や鳥を楽しむこともできます。母と子の森の中央には、さまざまな木々や草原エリアに囲まれた池もあります。こうした生息地は、あらゆる種類の小動物のすみかとなっており、春にはスミレが咲き、秋には鳥たちが地面を覆うどんぐりや栗を食べにやって来ます。池の片側には休憩所があり、親子でくつろげる場所となっています。